

信楽中学校区の学校再編に係る保護者説明会WEBフォームに寄せられたご意見・ご質問への回答について

いただいたご意見やご質問のうち、個人が特定される可能性がある情報等は削除しております。

番号	いただいたご意見等	ご意見等に対する教育委員会の考え方
1	<p>まず、説明会を通して感じましたことは、学校再編にあたり、新しい学校をより良いものにしていくための具体的な議論や、「皆で一緒に考えていこう」という姿勢が、十分に伝わってこなかった点が残念であったということです。</p> <p>当日は、支援学級、特認校、地域学習、学力など、さまざまな意見が出されていました。これらの課題について、学校再編準備委員会の中に分野別の部会を設けていただき、より前向きで具体的な議論ができる場をつくっていただけないかと考えております。</p> <p>準備委員の皆様のご負担が大きいとのご意見もありましたが、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関心のある部会のみへの参加</li> <li>・ オンラインでの傍聴</li> <li>・ メール等による意見募集</li> </ul> <p>など、負担を軽減しながら参加できる方法も検討できるのではないかと思います。</p> <p>例えば、支援学級に関する部会を設け、説明会でも話題に出たインクルーシブ教育について、先進事例を保護者ととともに視察し、甲賀市として再編時にどのような取組が可能かを話し合うことも、有意義ではないでしょうか。</p> <p>新しく始まることに対して、保護者が不安を感じることは自然なことだと思います。しかし、学校再編が始まる今だからこそ、多くの要望や課題、そしてそれを解決するためのアイデアを広く集め、それを反映させることのできる貴重な機会でもあると感じています。</p> <p>不安から反対するだけでこの機会を逃してしまうのは、非常にもったいないことではないかと考えます。</p> <p>今後、市として「新しい学校をより良くしていくために議論を進めたいこと」「広くアイデアを募集していきたいこと」を積極的に周知していただき、甲賀市・保護者・学校・地域が一体となって学校づくりに取り組む姿勢を示していただければ幸いです。</p> <p>今後の学校再編が、子どもたちにとってより良いものとなることを心より願っております。</p>	<p>ご意見をいただいておりますとおり、再編校のよりよい教育環境を実現するため、学校再編準備委員会において、保護者の皆様や地域の皆様と新たに設置する学校をより良い学校としてくための議論を重ねたいと考えております。</p> <p>学校再編準備委員会では、通学やPTA活動、服装等について、部会を設置し、議論をいただく場を設置し、保護者の皆様等のご意見をしっかりと反映してまいりたいと考えています。</p>

2	<p>1. 再編の必要性・メリットが不明確</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現時点では、再編によって何がどのように良くなるのかが示されていない。</li> <li>・ 人数減少を理由にしているが、具体的な数値や比較データが提示されていない。</li> <li>・ 各学校で実施されたアンケート結果を見たら分かると思われるが、「少人数であること自体が問題である」という暗黙の前提には事実誤認がある。 → 再編の必要性そのものが見えてこない。</li> </ul>	<p>現在、信楽地域に設置している5校中3校で複式学級の編制が必要な状況となっており、近年中には、信楽小学校を除く4校で複式学級の編制が必要になると見込まれています。市内において、複式学級の編制は信楽地域の小原、朝宮、多羅尾、そして甲南第三小学校が対象となっており、信楽地域における各校の小規模化、少人数化が特に顕著な状況です。</p> <p>複式学級とは、児童数が2学年合計で16人以下の場合、2学年で1学級を編制する制度であり、1人の教員が1つの授業時間の中で、2学年分の指導を同時に行う必要があることから教員への負担も大きく、また、子どもたちにとっても負担が大きくなります。このことから、全国的な事例においては、複式学級の編制が必要となることを機に学校再編を進められるケースが多い状況です。</p> <p>これまで、市では複式学級の解消や、授業時の複数学年同時授業を解消するために、市費講師を採用し、子どもたちや教員の負担軽減を図ってきましたが、全国的な教員不足の影響もあり、年々その採用も困難となってきている状態であり、子どもたちや教員が安心して授業を受けられる、また授業を行うことができる環境を整備するためにも、学校再編により、一定の人数の集団の確保が必要であると考えています。</p>
	<p>2. 少人数教育に対する認識の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少人数教育の方がむしろ良いのでは。</li> <li>・ 甲賀市が掲げる教育目標は、人数が少ない方が達成しやすい側面がある。</li> <li>・ にもかかわらず、少人数の「何が」「どのように」悪いのかが説明されていない</li> <li>・ 抽象論に終始している → 具体的に、少人数教育のデメリットを、根拠とともに示すべき。</li> </ul>	<p>次に少人数教育に対する認識についてですが、少人数教育自体は、児童数が少なれば少ないほど一人ひとりの児童の様態を見取りやすくなることは明らかであると考えています。</p> <p>一方で、信楽地域のきわめて小規模な学校では、1学年あたりの児童数が10人未満の学級が大半であり、児童に対する指導について、少人数教育よりも個別指導に近い状況にあり、特に様々な価値観や意見を共有しあう学習や、グループ内で役割を分けて探究する学習等の実施が日常的に行うことが難しい状況にあると考えられます。学校や学級での生活は、子どもたちにとって、小さな「社会」であり、授業中の他の児童の発表やグループ学習での意見交換、休み時間の対話や遊びといった直接的なものから、他の児童の制作物を見ることや、また意図せず聞こえてくる他の児童の会話ですらも、子どもたちの価値観や人格を上げるための体験や経験であると考えます。もちろん、現在でも異学年交流や学校間交流などを通じて、そのような機会を得られるようにしているところですが、同年齢の子どもたちから、日常的に自ら感じ取れる機会には大きな差が生まれると考えます。</p>
	<p>3. 教育内容に関する懸念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「1年ごとに異なる地域文化を学ぶ」といった説明があったが、現実的にも教育的にも無理がある。</li> <li>・ 地域文化は、短期的・断片的に学べるものではない。</li> </ul>	<p>次に、地域学に対するご懸念についてですが、地域学のカリキュラムについては、現在も指導主事や信楽地域の各小中学校長、担当教員等により議論を進めているところです。ご懸念にあるように、学年ごとに断片的に各地域のことを学ぶのではなく、小中9年間を通して、段階的に各学年で学ぶ他の教科とも関連させながら、信楽地域全体のことを学んでいく必要があると考えています。これまでの学校区ごとのことだけでなく、各地域の子どもたちが、信楽地域の他の学区のことも学ぶことで、信楽地域全体、ひいてはふるさと甲賀に誇りを持つことができるカリキュラムを編成していきたいと考えています。</p>

<p>4. 民主主義と合意形成の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ このまま進めると、現場では「説明されたこと」と「納得したこと」が混同される。</li> <li>・ それが最も危険であり、将来的に必ず不信と反発が残る。 時間はかかっても、今、丁寧に合意形成を行う方が、結果的には最も早い。 → 計画は一度延期すべき。</li> </ul>		<p>ご意見をいただいている4点目の件について、現在も児童数は年々減少の一途を辿っており、特に、残念ながら信楽地域の児童数は市内5地域の中でも最も減少率が高く、子どもたちのおかれている教育環境の整備は喫緊の課題であると認識しています。このことから、説明会でも申し上げましたとおり、子どもたちの将来のことを鑑みたく、このタイミングで進めたいと考えています。一方で、ご指摘にもありますように、保護者の皆様への丁寧な説明と不安解消による合意形成は不可欠であると考えており、引き続き丁寧に進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>5. 学校名・地域アイデンティティへの配慮不足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統合ではなく再編ということをおっしゃったので、信楽小学校区の住民には、「信楽小」という名称がなくなる可能性が高いことを、明確に伝える必要がある。</li> <li>・ 学校名は単なるラベルではなく、地域の歴史と誇りそのものである。騙し討ちのようなことになってはならない。</li> </ul>		<p>学校名の件につきましては、信楽小学校のみならず、再編対象となる各学校において明治期より続く学校名は地域の誇りや歴史となっていることは十分理解しており、今後も各地域において丁寧な説明に努めてまいります。</p>
<p>6. 検討体制への疑問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再編を議論する場に、現場を知る学校長を参加させるべき。</li> <li>・ 通学バスなどに関しては、交通・バス関連の部署も同席させるべき。</li> <li>・ 将来的に、「部署が違う」「予算が別」といった説明が予想され、それは市民にとっては責任回避の言い訳にしか聞こえない。朝宮保育園の休園時にこの言い訳があった。これは議事録として残っている。必要ならそのときの保護者会の役員が説明しに行く。</li> </ul>		<p>学校再編に関する議論を進めるにあたり、信楽地域の小中学校長も参加した庁内検討組織を立ち上げ議論を進めており、また、今後、設置を予定している学校再編準備委員会の委員としても参加を予定しております。</p> <p>また、スクールバスの運行に係る議論についての公共交通推進課の出席につきましては、運行手法や信楽地域全体の公共交通網への影響等により、その必要性が異なることから、状況に応じて検討いたします。なお、保育園休園に対する通園バス運行のご要望と学校再編によるスクールバスの運行については、性質上異なるものであり、スクールバスの運行については、教育委員会が責任をもって調整いたします。</p>
<p>7. 他地域の先行事例を学ぶべき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山縣方式など、学校再編を安易に進めない選択をしている自治体の事例を、きちんと学ぶ必要がある。</li> <li>・ 再編後の学区のメリット・デメリットを、両方とも明示すべき。</li> <li>・ 再編後の校舎の活用についても、具体的に活用方法を提示すべき。使われずに朽ちていく校舎を見るのは、地域として許容できない。</li> </ul>		<p>次に、他地域での様々な事例についてですが、ご意見をいただいております岐阜県山県市で取り組まれている「山県方式」については、取り組み手法や考え方については、承知しております。第2次甲賀市小中学校再編計画（基本計画）は、本市全体の子どもたちがおかれている教育環境を俯瞰的に見わたり、甲賀市小中学校教育のあり方審議会の提言や甲賀市学校再編審議会からの答申に基づき策定したものです。本計画において、地域ごとにきわめて小規模な学校を存続させる地域やそうでない地域を分けて運営を行うことは考えておりません。学校再編後の地域振興や跡地の利活用については、地域の皆様のお考えやご意向を伺いながら、総合政策部を中心に今後議論を進めていくこととなります。</p>
<p>8. ICT・デジタル教材に関する認識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタル教材万能論には強い疑問がある。</li> <li>・ ヨーロッパでは、デジタル中心から紙ベースに戻す動きが進んでおり、研究的裏付けもある。</li> <li>・ 流行やスローガンではなく、実証研究に基づいた議論が必要。</li> </ul>		<p>最後に、デジタル教材等に関する認識についてですが、本市学校教育においても、デジタル教材が万能であるとは考えておりません。学校教育の指針にも位置付けておりますとおり、デジタル教材は「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するための一つの「ツール」として位置付けており、今後、さらなるデジタル社会に子どもたちが身を置く中で、必須の技能となることが見込まれる情報活用能力やプログラミング的思考を養うとともに、AIドリル等を活用したそれぞれの苦手分野やつまづきのある単元の反復学習や確認に活用するものです。今後も、アナログとデジタルそれぞれの得意分野を掛け合わせた授業展開を進めてまいります。</p>

先日は、説明会を開いていただきありがとうございました。また遅くまで質疑にお答えいただき感謝致します。

ただ、今回の説明、質疑回答を伺い、反対寄りの意見を述べることとなります。

まず、信楽小学校建て替えの最中に、たまたま再編計画が進んでいると伺いましたが、1次計画の時点で建て替えの要望があった事は存じております。建て替えが始まるずっと前から江田区には計画の周知が進んでいたことも存じております。1次計画に反対した地区には計画の周知がなかった事についてどうお考えでしょうか？

そして、「信楽小学校建て替え」であるならば、校名も、校歌も、信楽小学校の物を引き継がれるのですよね？そして、窯業試験場跡は、ロータリーか駐車場になる予定ですよ。それは、「5校を再編したら、信楽小学校新校舎に他校を受け入れる」とも捉えられますが、統合されるのでしょうか？進んでいる計画に矛盾が生じていて、納得出来かねます。

また、「特認校制度取消」の説明に愕然としました。あまりにも身勝手です。学校の生徒数を増やすための制度と謳っておりましたが、そんな筈はありません。特認校の各学校が、「ウチはこんな特色がある」と宣伝し、他にない魅力に憧れて、保護者も色々覚悟して、こどもを通わせておられます。「小規模校のここならサポートも厚い」と期待し、不登校やいじめ、その他多様な事情のあるお子さんの受け皿にもなっています。特認校制度を残す、または見直し、信楽町は小学校2校に編成し、信楽小学校新校舎と、特認校として小原小を活用するのはいかがですか？5校を2校にするのであれば必要な教師数も減少し、講師数も少なく済みますよね？小原小はエレベーター完備、多羅尾よりは雪も少なく、送迎も問題ありません。小原からなら、朝宮茶の取り組みも多少は引き継ぐ事が可能でしょう。

再編はおそらく進むもの、と受け止めておりましたが、矛盾だったり、統合のような再編計画だったり、と納得できない内容でした。改めて2校体制の編成を希望致します。

まず、信楽小学校の改築につきましては、説明会でも申し上げましたとおり、学校再編の有無に関わらず改築が予定されていたものになります。このことについては、令和3年3月に策定した甲賀市小中学校施設長寿命化計画（個別施設計画）において位置付けているものであり、第2次甲賀市小中学校再編計画（基本計画）（以下、「本計画」という。）の策定以前から計画していたものになります。

また、改築工事開始以前に江田区において計画の周知が進んでいたとのご指摘ですが、学校再編担当、施設整備担当のいずれからも公式に江田区の皆様へ本計画についての周知を行ったことはなく、いずれの地域の保護者の皆様に対しても、令和7年5月から6月にかけて開催した保護者の皆様との意見交換会でお示ししたのが初めてとなります。

本計画14ページに記載のとおり、信楽小学校の改築工事完了時期に合わせ、5つの小学校を1つに「再編」するものと計画しており、信楽小学校として改築された校舎を再編により新たに設置する学校の校舎として活用するものです。

特認校制度につきましては、ご意見にもありますように、学校の特色を生かした魅力ある教育活動の中で、「児童を学ばせたい」「学びたい」という保護者・児童に対して、通学区域に関係なく、市内全域からの就学を一定条件のもとに認めることで、特認校指定校の活性化を図り、児童が互いに切磋琢磨して高めあえる教育環境作りをめざしてまいりました。このような中で、保護者の皆様との意見交換等を通して、制度開始時とは異なる多様な学びの受け皿となっていることがわかりましたが、特認校制度自体がそのような役割を想定していないことから、実際に受け皿となるためには支援体制が不足している状況でもあります。また、学校に行きづらい、また教室に入りづらい児童等の受け皿としては、近年、市内の全小学校に教室に入りづらい等の事情を抱える子どもたちの居場所となるスペシャル・サポート・ルーム（SSR）を設置し、児童のケアを行うスクーリングケアサポーターを配置しているほか、学校外での居場所として教員免許を有する職員を配置した教育支援センターを設置し、体制も強化しているところです。

また、説明会資料でもお示ししておりますとおり、市内の児童数は、特認校制度を開始した約10年前と比べて全体で20%以上減少しており、今後も減少が続くことが見込まれます。信楽地域においては、この10年で児童数は、約40%減少し、5年後にはさらに今よりも約20%以上児童数の減少が見込まれており、市内全域から特認校への通学を認める制度そのものが、特認校以外の学級編制等に大きな影響を与える可能性があることから、引き続きの指定は難しいと考えています。

・本再編計画の意図について、「子供たちにより良い教育を提供することを最優先」とご説明いただきましたが、再編という手段が「より良い教育」に繋がるという点において、説得力が薄いと感じました。再編により一人の教員が受け持つ児童数は増え、多くの児童は通学時間も長くなります。こうしたデメリットも想定される中、なぜ再編が子供たちにとって良いことなのか、デメリットを上回るメリットがあるのかについて、過去の事例や数値的な根拠に基づいた、より深掘りした説明が必要だと考えます。

・再編の理由として、財政面や教員不足などの課題について言及がない点には違和感を覚えました。人口減少に伴う税収減や、市内の他校との教育コスト（児童一人当たりで充てられる予算）の格差等が理由であれば、保護者としても納得できる部分はあります。しかし、そうした現実的な課題を伏せたまま「子供たちのため」という大義名分のみを強調されると、かえって不信感を抱いてしまいます。財政面や人員確保などの現実的な問題があるのであれば、それらも含めて総合的にご説明いただくべきではないでしょうか。

・通学手段（スクールバス等）の確保は、本計画を進める上での必須条件としてお考えいただきたいです。この点について、ある程度現実的かつ具体的なプランが示されない限り、保護者としては再編を前向きに捉えることはできません。

・再編のスケジュールについても懸念があります。通学手段を含め、現時点で未確定の要素が多い中で、提示された期間内で本当に実現可能なのか疑問が残ります。不安を払拭するためにも、より具体的で現実的なスケジュール（ロードマップ）を提示していただきたいと感じました。

・個人的には、昨今の少子化等の状況を鑑みると学校再編は避けられない課題であると理解しており、決して否定的な立場ではありませんでした。しかし、今回の説明会では納得のいく十分な説明が得られなかったため、現時点では本計画に対して懐疑的な立場を取らざるを得ません。今後のより丁寧なご説明と情報開示を要望いたします。

現在、信楽中学校区に設置している5校中3校で複式学級の編制が必要な状況となっており、近年中には、信楽小学校を除く4校で複式学級の編制が必要になると見込まれています。市内において、令和7年度の複式学級の編制は小原、朝宮、多羅尾、そして甲南第三小学校が対象となっており、信楽中学校区における各校の小規模化が特に顕著な状況です。

複式学級とは、児童数が2学年合計で16人以下の場合、2学年で1学級を編制する制度であり、1人の教員が同じ授業時間の中で、2学年分の指導を同時に行う必要があることから教員への負担も大きく、また、子どもたちにとっても負担が大きくなります。このことから、全国的な事例においては、複式学級の編制が必要となることを機に学校再編を進められるケースも多くみられます。

これまで、市では複式学級の解消や、授業時の複数学年同時授業を解消するために、市費講師を採用し、子どもたちや教員の負担軽減を図ってきましたが、全国的な教員のなり手不足の影響により、年々その採用も困難となってきた状態であり、子どもたちや教員が安心して授業を受けられる、また授業を行うことができる環境を整備するためにも、学校再編により、一定の人数の集団の確保が必要であると考えています。

また、ご意見をいただいております、児童一人当たりで充てている予算等の比較については、第2次甲賀市小中学校再編計画（基本計画）24ページに資料として掲載しておりますので、ご参照ください。

スクールバスについては、運行を見据えて検討を進めており、考え方や具体案については、当日の説明資料25ページから27ページでお示ししております。検討を進める中で、運行経路案についても作成しているところですが、実際の運行経路や集合場所等については、保護者の皆様等のご意見をお伺いし、調整を行う必要があると考えており、新たな再編校を設置するにあたり、その他の事項も含めて、今後設置する学校再編準備委員会において、ご検討・ご調整をいただきたいと考えております。

今後も引き続き保護者の皆様や地域の皆様へ、丁寧なご説明に努めるとともに、学校再編に関する情報をしっかりとお伝えしてまいります。

1回目の説明会に出て、意見を送りました。  
小学校の編成には反対しております。

まず、2回目の資料でスクールバスについて、具体的な経路などの記載がありました。  
スクールバスの話が少しでも進んだのかと思いきや、あくまで案であること。

まだ確定事項ではないんですね。

予定では令和10年に統合ですよ、もうすぐそこまで迫ってきてるのに、まだ具体的な話になっていないスピード感に驚きです。

先ほど回覧板で、運転手不足による甲賀市のコミュニティバスの廃線、減便のお知らせを見ました。こんな状況の中、朝の通学時間帯に何台ものバスを動かすことは可能なのでしょうか？

10年前の小学校再編成は反対されたあと、そこから何の検討もなく、ここまできたんだらうなと感じます。

親としては子供を安全に、無理なく小学校に通わせたいです。

スクールバスの確約がない限り再編成には反対し続けます。

また我が子は4月から年長です。予定通りいくと1年生は雲井小学校、2年生からは統合された信楽小学校になります。

現在雲井小学校は制服です。2年目から制服なのか、私服なのかももちろん決まっていません。体操服も違います。

たった1年のために制服を買うことになる可能性もあるなんて勿体無いなと思ってしまいます。

果たして購入時期までにこの統合の話は進んで、数年後どうなっていくのか決まるのかな？と疑問です。

本当に小学校を統合するのであれば、いまのスピード感では子にも保護者にも負担です。

ここから10年計画で徐々に統合を決めていくのもいいのではないのでしょうか。

暖かくなり、放課後雲井小学校のグラウンドにたくさんの子が集まり遊んでいるのをみかけます。

この辺りは公園などもなく、唯一みんなで遊べる場所なのではと思います。

廃校になり、整備されなくなり、子供達の遊ぶ場所がなくなるのは悲しいことです。

雲井学区には子供達まだいます。

小学校残してほしいです。

まず、スクールバスの運行の件についてお答えいたします。

保護者の皆様への説明会でもご説明いたしましたとおり、現在、再編により通学距離が延びることとなる地域の児童については、スクールバスの運行を主として調整を進めているところです。説明会では運行ルートの方についてもお示しいたしましたが、毎年、スクールバスを利用する児童数や居住状況が変わるだけでなく、集落内の狭い道や急な坂道を運行することが想定されることから、集合場所や運行経路等については保護者の皆様等との調整が不可欠であると考えております。このことから、令和8年4月に設置する学校再編準備委員会においてご意見を伺い、調整を進め、保護者の皆様や子どもたちに安心して通学いただける環境を作ってまいりたいと考えております。また、運転手の確保につきましても、バス運行会社への委託だけでなく、市直営の実施も含め、あらゆる手段、運行手法により確保してまいりたいと考えております。

次に、ご心配いただいている服装の件についてです。

こちらにつきましても、小学校ごとに「標準服」と「私服」の採用状況が異なっております。それぞれにメリット・デメリットがあり、保護者の皆様の間でもご意見が分かれることが考えられますので、スクールバスと同様に、学校再編準備委員会においてご意見を伺い、調整したいと考えております。調整結果については、可能な限り早く保護者の皆様にお伝えし、過度な負担とならないようにするとともに、再編前後においては柔軟な対応を行ってまいりたいと考えております。

最後に、現在、信楽中学校区に設置している5校中3校で複式学級の編制が必要な状況となっており、近年中には、信楽小学校を除く4校で複式学級の編制が必要になると見込まれています。市内において、令和7年度の複式学級の編制は小原、朝宮、多羅尾、そして甲南第三小学校が対象となっており、信楽中学校区における各校の小規模化が特に顕著な状況です。このことから、子どもたちが安心して授業を受けられる、また教員も安心して授業を行うことができる環境を整備するためにも、信楽小学校の改築時期に合わせた学校再編により、一定の人数の集団の確保を進めることが必要であると考えています。